

Custom makes
all things easy.
(習うより慣れろ)

Triangle

令和3年 9月 3日
富江中学校 第 8号
校長 山上 福範

平和祈念集会

8/9(月)



(校長講話抜粋)

戦争が終わって今年で76年です。戦争の残虐性や無意味さを語り継ぐ語り部の役割は、もはや戦争体験者から戦争体験を聞いた人たち、つまり私達の順番にならざるをえません。

3年生が修学旅行報告会で戦争に関係する場所を通して考えたことを発表してくれました。

1カ所目、佐世保市の針尾無線塔。100年前に当時のお金で250億円という大金をかけて高さ136m、直径12mのコンクリート製の無線塔を3本建てました。まだまだ、あと100年はもつと言われています。

2カ所目、川棚町に残る魚雷発射訓練所跡。若者が爆弾とともに魚雷となって敵の船にぶつかった人間魚雷の「回天」。ペラペラの薄いベニヤ板で作ったボートに爆弾を付けて敵の船にぶつかった「震洋」。粗末な潜水器具を装着して海の底で敵を待ち、約5mの竹竿に付けた爆弾を船にぶつける「伏竜」。

これらは、すべて実行したら死ぬという、残酷で人を人として扱わない作戦でした。亡くなったのは今の高校生に当たる若者達が中心でした。

悲しいことに、川棚町で訓練を受けた若者だけで3,511名が亡くなっています。川棚町には戦後76年経っても、全国から亡くなった若者の遺族が、慰霊のために訪れています。

なぜでしょうか？ それは、亡くなった若者一人一人が全員、遺族にとって、かけがえのない存在であり、76年経っても深い悲しみがずっと続いているからです。

これらの他にも、攻撃から避難するために、子どもたちが2年間ただただ掘り続けた無窮洞という防空壕の発表もありました。

最後に、養護教諭が修学旅行から帰って来た時に書いた感想を紹介します。

見学地は初めて訪れた所ばかりで、長崎県内のことを知る良い機会となった。針尾無線塔は大正時代に建てられ、現在も残っている。当時の技術力の高さに関心すると同時に、この技術が戦争に使われるのではなく、人々の生活に活かされていたら良かったのにと、強く思った。

また、川棚魚雷発射訓練所跡は静かな海辺にあり、当時と今では見える風景が大きく違うだろうと感じた。戦時中、装備も十分でない状態で戦わなければならなかった当時の若者たちのことを考えると、戦争は2度とあってはならず、今の平和な世の中に感謝し、生きていきたいと強く思った。



(ひとくちメモ)

自殺ボートと呼ばれた「震洋」などの兵器は、有川町の海上特攻基地に配備された後、奥浦や大浜、そして富江にも配備される計画でした。

2学期始業式 9/1(水)



各学年代表が2学期にかける思いを語ってくれました。(一部抜粋)

★1年 坂本

2学期の目標を3つ掲げます。

1つめは「何事にも一生懸命がんばること」。

2つめは「自分を支えてくれる人たちに感謝の気持ちを忘れないこと」

3つめは「くじけそうになってもあきらめないこと」。

これらを意識しながら、充実した2学期を過ごします。



★2年 福山

2つの目標を立てました。

1つめは「いろいろなことにチャレンジする」です。失敗を恐れずに自信を持って自分の考えを表現し、いろいろなことにチャレンジしていきます。

2つめは「自分の仕事に責任を持つ」です。一人一人が任された仕事を最後までやり遂げることで、責任感や自信を持って行動できるようになることを目指します。

2学期は3年生からバトンを受け取る時期です。先輩たちの想いや伝統を引き継いで、新しい風を吹き込むためにも、2年生全員で協力し合い、行事だけでなく部活動や生徒会活動などにも一生懸命取り組みます。

★3年 小川

3年生としての抱負が2つあります。1つめは挨拶です。特別な時に限らず、いつでも大きな声でワンストップ挨拶を行い活気のある挨拶が

できる富江中学校のリーダーとして、私たち3年生が引っ張っていきます。

2つめは、宿題などの提出物を選ねることなく提出するという事です。高校入試では、期限内に提出物を提出できなければ受験資格を失うこととなります。これは、受験生である3年生にとって、とても痛いことです。確実に行わなければならないことを把握し、改善していきます。

★校長講話

学校目標「自ら動こう仲間と共に高め合おう 我らが富中」を達成するためには条件がある。

第1に危険予知を前提とした安全。自分の命を自分で守ることが最優先。

第2に健康。健康を支えるのが免疫力アップのための運動・入浴、朝ごはん、メディアコントロールによる睡眠。今はコロナウイルス感染症対策の徹底も重要。

第3に「積極的な失敗と自他へのヘルプ」。自分(たち)を高めるには、積極的な失敗が必要。「自他へのヘルプ」とは、失敗した後に自分で改善策を考える「自分へのヘルプ」や自分から仲間に相談する「他に求めるヘルプ」、仲間から困っている本人へ協力する「他から当人へのヘルプ」を意味する。

「積極的な失敗と自他へのヘルプ」が2学期、校長から富中生へのミッション(指令)。

夏休みの健闘

★3年 尾崎

県中総体 柔道73kg級 3位

★富江中学校吹奏楽部

県吹奏楽コンクール地区大会銅賞